

## 《Ⅱ 教育の内容》

### 【教育課程について】

(1) 学科等の現在の教育課程を、下の表を例に作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。

平成 20 年度に学科改組等を行った場合は、平成 19 年度の教育課程表を別途作成し、巻末に綴じて下さい。

### [保育科]

平成18年度 保育科授業科目一覧

授業科目	授業形態			単位数		教員配置				前年度の履修人員	備考
	講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼担	兼任	非常勤		
哲学	○				2			○		17	
ヨーロッパ文学	○				2		○			20	
歴史	○				2		○			11	
文化人類学	○				2		○			37	
心理学	○				2		○			128	
芸術論	○				2		○			28	
人文地理	○				2		○			89	
女性学	○				2			○		23	
社会思想史	○				2	○				20	
アメリカ研究	○				2	○				6	
くらしと経済	○				2	○				27	
くらしと法律	○				2		○			40	
化学	○				2			○		15	
地球のサイエンス	○				2			○		7	
環境のサイエンス	○				2		○			0	
生命のサイエンス	○				2			○		0	
スポーツと文化	○			2			○			121	
海外研修		○			2		○			13	
英語 I		○		1			○			116	
英語 II ※		○			1		○			136	※印3科目より1科目を選択必修
仏語 ※		○			1				○	95	
中国語 ※		○			1			○		28	
体育実技 I			○	1			○		○	211	非常勤を含む
体育実技 II			○		1		○			63	
保育者論	○			2				○		119	
教育原理	○			2		○				115	
教育心理学	○			2		○				119	
保育課程総論	○			2		○				110	
保育内容の基礎		○		1		○				103	
健康指導法 I		○		1		○				117	
健康指導法 II		○			1	○				103	
人間関係指導法		○		1					○	103	
環境指導法		○		1				○		105	
言葉指導法		○		1		○				119	

学  
科  
科  
目

音楽表現指導法Ⅰ		○		1		○				119	
音楽表現指導法Ⅱ		○			1	○				115	
造形表現指導法Ⅰ		○		1					○	119	
造形表現指導法Ⅱ		○			1				○	115	
臨床心理学		○		2				○		156	
総合演習Ⅰ		○		1		○		○		119	兼任を含む
総合演習Ⅱ		○		1		○				118	
教育実習			○		4	○				116	
教育実習(事前事後指導)			○		1	○				345	年度をまたぐ
音楽言語概論		○			1			○		47	
器楽Ⅰ		○			1	○			○	142	非常勤を含む
声楽		○			1	○				110	
基礎造形		○		1				○		119	
幼児体育		○		1		○			○	119	非常勤を含む
児童文学		○		1		○				103	
保育実習(保育所)			○		2	○				108	
保育実習(施設)			○		2	○				108	
保育実習(事前事後指導)			○		1	○				106	
発達心理学	○			2		○				115	
児童福祉	○			2		○				119	
社会福祉	○			2		○				103	
社会福祉援助技術		○			2			○		105	
保育原理	○			4				○		119	
養護原理	○			2		○				112	
精神保健	○			2				○		112	
小児保健	○			4		○				106	
小児保健実習			○		1				○	103	
乳児保育		○			2				○	104	
小児栄養		○			2				○	105	
保育実習Ⅱ			○		2	○				98	
保育実習Ⅲ			○		2	○				7	
生涯発達心理学		○		2				○		0	
養護内容		○		1		○				105	
障害児保育		○		1				○		104	
児童文化Ⅰ		○		1		○				15	
児童文化Ⅱ		○		1		○				3	
子どもと造形Ⅰ		○		1				○		15	
子どもと造形Ⅱ		○		1				○		7	
器楽Ⅱ		○			1	○			○	92	非常勤を含む
器楽Ⅲ		○			1	○				93	
家族援助論	○				2	○				104	
子どもとスポーツ		○			1	○			○	52	非常勤を含む
レクリエーション指導法		○			1	○		○		31	兼任を含む
現代子ども論	○				2	○				40	
日本国憲法	○				2			○		119	
コンピューター概論		○		2				○		119	
基礎演習		○		1		○				119	
特殊演習		○		2		○				107	

[キャリアデザイン学科]

平成18年度 キャリアデザイン学科授業科目一覧												
授業科目	授業形態			単位数		教員配置				前年度の履修人員	備考	
	講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任	非常勤			
共通科目	哲学	○				2			○		17	
	ヨーロッパ文学	○				2		○			20	*1
	歴史	○				2		○			11	
	文化人類学	○				2		○			37	
	心理学	○				2		○			128	
	芸術論	○				2		○			28	
	人文地理	○				2		○			89	
	女性学	○				2			○		23	
	社会思想史	○				2	○				20	
	アメリカ研究	○				2	○				6	
	くらしと経済	○				2	○				27	
	くらしと法律	○				2		○			40	
	化学	○				2				○	15	
	地球のサイエンス	○				2				○	7	
	環境のサイエンス	○				2		○			57	
	生命のサイエンス	○				2				○	45	
	スポーツと文化	○				2		○			121	
	海外研修		○			2		○			13	
	英語 I		○		1			○			206	
	英語 II		○		1			○			136	
	仏語		○			1				○	95	
	中国語		○			1				○	28	
	体育実技 I			○	1			○		○	211	
	体育実技 II			○		1		○			63	
学科科目	キャリアデザイン論I	○			2		○				89	
	キャリアデザイン論II	○			2		○				90	
	ビジネスマナー演習		○		1		○				88	
	日本語表現I		○		1		○				89	
	日本語表現II		○		1		○				89	
	ゼミナールI		○		1		○				87	
	ゼミナールII		○		1		○				87	
	ゼミナールIII		○		1		○				102	
	ゼミナールIV		○		1		○				102	
	企業組織とキャリア	○				2		○			36	
	ジェンダーとキャリア	○				2				○	43	*2
	ボランティアとキャリア	○				2		○			56	
	仕事とキャリア	○				2		○			58	
	情報処理論	○				2	○				43	
	コンピュータ概論	○				2	○				43	
	表計算演習 II		○			1	○				20	
	データ処理演習		○			1	○				19	
	情報システム論	○				2				○	28	
	EUC概論	○				2	○				14	
	CG演習		○			1	○				29	
	DTP演習		○			1	○				29	
	情報機器プレゼンテーション演習		○			1	○				5	
ウェブデザインI	○				2	○				15		
ウェブデザインII-1		○			1	○				6		

ウェブデザインII-2		○		1	○			6
デザイン論	○			2	○			9
ウェブプログラミングI		○		1	○			11
ウェブプログラミングII		○		1	○			11
マルチメディア演習I		○		1	○			7
マルチメディア演習II		○		1	○			7
ウェブデザイン演習I		○		1	○			11
ウェブデザイン演習II		○		1	○			11
コミュニケーション	○			2	○			7
情報社会論	○			2	○			51
情報と経済	○			2	○			14
経済学	○			2	○			12
経済政策	○			2	○			14
地域経済学	○			2	○			18
金融論	○			2	○			20
保険論	○			2	○			23
日本の税制	○			2	○			22
ファイナシャルプランニングI		○		1	○			3
ファイナシャルプランニングII		○		1	○			2
経営学	○			2	○			46
経営管理論	○			2	○			33
マーケティング論	○			2	○			27
簿記論	○			2			○	15
会計学	○			2			○	6
商法	○			2	○			23
ビジネス実務総論I	○			2	○			48
ビジネス実務総論II	○			2	○			15
ビジネス実務演習I		○		1	○			34
ビジネス実務演習II		○		1	○			20
ビジネス文書		○		1	○			27
生活環境論	○			2				30
社会環境論	○			2	○			29
生活と環境科学	○			2	○			17
生活文化総論	○			2			○	20
服飾文化論	○			2			○	26
住文化論	○			2	○			12
ファッションマーケティング	○			2	○			36
ファッション商品論	○			2	○			25
ファッション造形論	○			2	○			8
ファッション造形演習		○		1	○			23
フードサイエンス	○			2			○	8
ヘルスサイエンス	○			2			○	7
食品流通論	○			2	○			7
食生活実習			○	1			○	5
インテリアプランニング	○			2	○			14
安全計画論	○			2	○			21
エバーサルデザイン	○			2	○			9
CAD演習		○		1	○			36
解剖生理学	○			2			○	1
医薬と検査	○			2			○	21
公衆衛生学	○			2			○	26
医療福祉論	○			2			○	43
医療事務総論	○			2			○	29

医療事務演習		○			1				○	20
医療秘書実務	○				2	○				23
医療秘書実務演習		○			1	○				32
医事コンピュータ		○			1				○	27
社会福祉論	○				2				○	26
介護概論	○				2				○	9
介護実習	○				2	○				9
臨床心理学	○				2			○		51
カウンセリング論	○				2			○		39
青年心理学	○				1				○	34
組織と人間関係	○				2	○				35
総合英語I		○			1	○				15
総合英語II		○			1	○				4
英語表現I	○				2	○				6
英語表現II	○				2	○				9
時事英語	○				2	○				5
ビジネス英語	○				2	○				25
検定英語I		○			1	○				4
検定英語II		○			1	○				5
上級英語I		○			1	○				3
上級英語II		○			1	○				2
国際理解	○				2	○				25
国際コミュニケーション	○				2	○				4
日本文化論	○				2	○				16
現代文化論	○				2	○				13
観光地理	○				2	○				3
観光と歴史	○				2	○				12
観光関連法規	○				2	○				28
比較文化論	○				2	○				23
ワープロ演習		○			1	○				47
表計算演習I		○			1	○				36
海外語学研修		○			1	○				5
公務員受験I-1		○			1	○				17
公務員受験I-2		○			1	○				1
公務員受験II-1		○			1	○				3
公務員受験II-2		○			1	○				2
公務員受験III-1		○			1	○				3
公務員受験III-2		○			1	○				0
編入英語		○			1	○				0
小論文演習		○			1	○				17
ワープロ検定3級		○			1	○				32
ワープロ検定2級		○			1	○				45
簿記検定3級		○			1			○		15
簿記検定2級		○			1			○		3
秘書技能検定3級		○			1	○				17
秘書技能検定2級		○			1	○				10
販売士検定3級		○			1	○				9
ファッション販売能力検定3級		○			1	○				20
ファッション販売能力検定2級		○			1	○				5
色彩能力検定3級		○			1	○				38
福祉住環境コーディネーター検定		○			1	○				6
ピアヘルパー		○			1				○	7
診療報酬請求事務認定試験		○			1				○	21

日本の政治	○				2	○				22
日本の経済	○				2	○				25
パソコントラブル対策講座	○				2	○				16
朗読		○			1	○				12
ファイナンス入門	○				2	○				6
国際金融論	○				2	○				22
キャリアデザイン演習		○			1	○				89
キャリア開発I		○			1	○				87
キャリア開発II		○			1	○				86
アナウンス基礎		○			1	○				7
アナウンス応用		○			1	○				12
番組製作実践I	○	○			2				○	8
番組製作実践II	○	○			2				○	13
放送と文学	○				2				○	11
放送と芸術	○				2				○	11
市民とマスコミ	○				2				○	3
私のマスコミ論	○				2				○	9
ボランティア活動I		○			1	○				0
ボランティア活動II		○			1	○				0
ボランティア活動III		○			1	○				0
DJとMC		○			1				○	3
インターンシップ			○		2	○				13
介護福祉論	○				2				○	42
ビジネスコンピュティングI		○			1	○				11
ビジネスコンピュティングII		○			1	○				15
旅行業務取扱管理者		○			1				○	10
旅行業務取扱管理者I		○			1				○	6

\*1 英語I・II及び体育実技Iを含め9単位以上

\*2 4科目8単位から1科目2単位以上選択必修

(2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

[保育科]

保育科では以下の点を重視している

1. 少人数教育
2. 高度な専門性を備えた教員の配置
3. 座学・実技のいずれにも偏らない調和のとれたカリキュラム
4. 授業内容改善の努力
5. 授業内容を把握しやすいシラバスの作成
6. 学科（専門）科目を精選し、高い専門性の要求に応える努力
7. 幅広い教養教育
8. 幅広い視野の獲得（他学科の学科科目〔開放科目〕の履修）

[キャリアデザイン学科]

キャリアデザイン学科では以下の点に取り組んでいる

1. 少人数教育

2. 必修および選択必修のコア科目の設定

職業観・職業意識の涵養ならびに基礎学力の養成に資する科目群である。

3. フィールドおよびユニットによる科目群の設定

さまざまな職業領域に関連する多数の選択科目をグループに分け、カリキュラムの構成をわかりやすくしている。

4. 職業・進路に合わせた14の履修モデルの設定

5. 「YES-プログラム」(若年者就職基礎能力支援事業) 準拠のカリキュラム編成(平成19年度より)

6. 教育課程に則した資格取得ならびに各種検定試験対策講座の開設

7. インターンシップなどの学外研修の重視

8. ワークショップ型ゼミナールの実践

「各種メディアを活用した社会人基礎力育成」プログラムの実践。(平成19年度の現代GPに選定)

9. 地域社会の生涯学習要求への対応

年1回の訪問介護員養成研修(2級課程)と春秋年2回の生涯学習講座(平成18年より)を実施している。

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

[保育科]

上述の教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格としては、幼稚園教諭2種および保育士資格がある。

教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会としては大学を含めた全学的な規模で行われる「資格取得支援プログラム」があり、この受講を学生に奨励している。

◆『学生ハンドブック』 参照

◆『資格取得支援講座ガイドブック』 参照

[キャリアデザイン学科]

(1) 上述の教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格

本学は愛知県知事による介護員研修2級課程の事業者指定を受けており、同研修修了者には介護員2級の資格が与えられる。

また全国大学実務教育協会の課程認定によって得られる資格として、「上級情報処理士」、「情報処理士」、「上級ビジネス実務士」、「ビジネス実務士」、「ウェブデザイン実務士」がある。

さらに、日本医療福祉実務教育協会の課程認定によって得られる資格として「医療秘書実務士」がある。

(2) 教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会

「ワープロ検定」、「販売士検定 2・3 級」、「ファッション販売能力検定 2・3 級」、「秘書技能検定 2・3 級」、「FP 技能士検定 3 級」、「色彩能力検定 3 級」、「福祉住環境コーディネータ 3 級」、「診療報酬請求事務能力認定試験」、「総合旅行業務取扱管理者」、「国内旅行業務取扱管理者」といった各種検定ならびに「公務員試験 1 次試験」の受験を奨励する目的で、これらに関連する学科科目を開設している。

◆『学生ハンドブック』 参照

(4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等でどのように指導しているか、また学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

#### [保育科]

本学科では共通（教養）科目 24 科目中の 20 科目、学科（専門）科目 58 科目中の 14 科目を免許・資格取得には必須とされない科目として設けている。また、時間割作成にあたって可能な限り複数科目の同時開講を避ける努力をしている。さらに、ガイダンスやゼミナールにおける履修指導で、幅広い教養を身に付けることの重要性を理解させるよう努めている。基本的には上述のように、選択しうる科目数の多さによって科目選択の自由度は保証されている。

#### [キャリアデザイン学科]

本学科のカリキュラムは、学生の進路希望に柔軟に対応しなければならないという学科の性質上、必修科目の数がきわめて少なく、且つ選択科目の数が相当に多いのが特徴である。また、たとえば保育科のように免許法による制約もないので、学生は自分の進路希望、或いは適性に応じて、時間割が有する物理的な制約はあるにせよ、かなり自由に科目を選択することができる。こうした環境は『キャリアデザイン学科履修ガイド』において具体的に確認できる。学生は、入学時に、この『履修ガイド』をもとに 2 年間の履修計画を立てることができる。新入生オリエンテーションはこの履修指導が中心となっており、徹底した個別指導をしている。

◆『キャリアデザイン学科履修ガイド』 参照

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件（必修単位の修得、学生納付金の納付等）を示して下さい。また学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

#### [保育科]

##### 1. 卒業要件最低取得単位

共通科目 8 単位以上、学科科目 54 単位以上、計 62 単位以上（内必修 35 単位）

##### 2. 学生納付金.

授業料の納入がない場合は期末試験の受験資格を失う、または単位取得認定が行われない旨、『学生ハンドブック』に明記されている。

##### 3. 学生への周知方法

『学生ハンドブック』に明記するとともに、入学時および学年当初の学生・教務ガイダンスに

において繰り返し説明している。また、【教育目的・教育目標について】の(2)において述べたように、本学が運営するウェブサイトに保育科独自ページを設け、その中で保育科の卒業要件単位数などを明記し、学生・教員のみならず広く一般社会にもその内容を公開している。

◆<http://www.nagoya-ku.ac.jp/college/hoiku/hoiku/index.html> 参照

◆『学生ハンドブック』 参照

[キャリアデザイン学科]

卒業要件最低取得単位は共通科目 9 単位以上、学科科目 46 単位以上、計 62 単位以上（内必修 14 単位）である。その他については上記保育科と同じである。

◆『学生ハンドブック』 参照

(6) 教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述して下さい。なおこの項はできれば学科等の責任者(学科長、学科主任等。以下「学科長等」という。)が記述して下さい。

[保育科長]

現状とその改善策について

専任教員の異動等によって開講科目と担当者の研究領域とが符合しているとは必ずしも言えない状況が出てきているので、個々の教員が自らの能力を十全に発揮できるよう開講科目の精選と見直しを検討中である。

高度な専門性を持つ保育者の養成が求められていることに鑑み、専任教員にもそれに応じた能力を発揮できる人材の採用と、研究条件の整備に努力している。

実習関連の科目（教育・保育実習事前事後指導）については、幼稚園教諭や保育士、施設職員などを特別講師として招き、実際の保育現場に対する理解を深めるよう配慮している。

[キャリアデザイン学科長]

【教育課程について】の(2)に記述した内容に以下の取組を加える。

学科設立 3 年目の平成 19 年度からは、新たに「社会人基礎力育成」を教育活動の主たる目標として設定することにした。さらに、平成 20 年度からはこの新しい目標達成のために従来のフィールド・ユニット分類によるカリキュラム構成を大きく簡素化することにした。

具体的には、学科科目全体を①キャリア発見科目、②社会人基礎力アップ科目、③スキルアップ科目の 3 つに分類し、それぞれから進路分野に合わせた代表的な科目をリストアップし、7 つの履修推奨コースを提示することにした。それらは、i) ファッションコース、ii) 旅行・ホテルコース、iii) 放送・マルチメディアコース、iv) 住居・インテリアコース、v) 一般企業・金融コース、vi) 医療事務・福祉コース、vii) 公務員・編入学コースの 7 つである。

## 【授業内容・教育方法について】

(1) シラバスあるいは講義要項を作成する際に配慮していること等を記述して下さい。

本学では、平成 13 年以來、シラバスを学内総合情報システム（通称 MELOS）上に掲載し、学外からも閲覧できるようにした。それと同時にシラバスをコンパクト・ディスク（CD）に複写して、全学生に配布した。ただし、平成 19 年度からはこの CD の配布を取りやめた。そのかわり、学内 LAN からの履修登録の際に、開講科目のシラバスを即座に閲覧できるようにするとともに、各科目の授業開始の際に、シラバスのプリントを配布することにした。

平成 18 年度より、半期 15 回の授業実施を義務づけた。そして学内情報システム上のシラバス項目「授業計画」を記入するにあたり、15 回各回のより具体的な記述に留意するよう指示した。

平成 19 年度には、学内情報システム上のシラバス内に、従来からの「授業計画」の他に、より詳細な計画を記入できる「授業計画表」を追加し、システムの改善を行った。

(MELOS : Mutually Enhancing Links of School Mates)

(2) 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどうのように把握し受け止めているか記述して下さい。

### [保育科長]

本学科では幼稚園教諭 2 種免許状と保育士資格を取得できる。このことが良くも悪くも学生の学業に対する姿勢を決定づけていると言える。免許と資格の同時取得を目指す学生にとっては、卒業必修科目以外であってもそれらに関わる科目を優先的に履修することになるため、学期はじめに履修登録する科目も自ずと決まってくる。興味や関心にもとづき自由意志で選択できる科目は充分用意されているものの、それらを積極的に履修する余裕とエネルギーはそれほど残されていないというのが実情である。

いっぽう、授業への出席率は高く、学期末試験の受験資格を失うほど欠席過多の学生は稀である。受講態度については、熱心に受講しようとする学生と、授業そのものに無関心で、指示しなければノートをとろうとしないような学生とに 2 極化する傾向が見られる。学生の自己評価では授業に意欲的に取り組んでいるとする学生が過半数を占めるものの、授業担当者の目にはそれは 2～3 割ほどにしか映らないのが残念である。

### [キャリアデザイン学科長]

本学科は、学生が自らのキャリア（職業・人生）を自らデザイン（設計）するために必要な知識、技能を修得する学科としてカリキュラムを整え、意欲、意識等において様々な段階にある者、或いはまた様々な能力・適性を持った者を学生として受け入れている。そのため、本学科には入学当初より高い意識を持ち、意欲的に学生生活を送る者から、自己の将来イメージが描けず、目標を定められないままに学生生活を送る者まで、様々な学生が混在している。

こうした現状から、学生の履修態度、学業への意欲等について一律に評価することは困難である。実際の講義や演習において、特に混乱した状況があるわけではないが、学生の履修態度は彼

らの様々な意欲や興味を反映し、積極的、意欲的な学生もいれば、義務的に出席し、意欲や集中力に欠ける学生もいる。こうした状況は、特に意欲的に学ぼうとする学生の期待に、本学科が十分に答えられていないという結果をもたらしている。

教員はこうした状況を踏まえ、それぞれの講義や演習において、学生の満足度を向上させるための改善努力を継続している。

## 【教育改善への努力について】

(1) 学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

### 1. 学生による授業評価の開始

本学は総合的な自己点検評価活動のひとつとして、平成10年12月、学生による授業評価および教員自身の授業評価に関する、初めてのアンケート調査を行った。これは自己点検評価委員会の下に組織された、白書アンケート実行委員会が担当した。

#### ① 学生による授業評価

シラバスのわかりやすさ、シラバスどおりの授業だったか、教材の適切さ、教員の熱意、学生自身の努力、総合的な満足度などについて質問した。

#### ② 教員自身の授業評価

シラバスの活用、教材の工夫、説明の工夫、私語への対処、施設設備の妥当性、安全確保などについて質問した。

アンケート調査の結果については白書アンケート実行委員会が分析を行い、教授会に報告するとともに、平成12年3月の自己点検評価報告書（白書）にまとめられた。

このときの取組みが本学のその後の学生による授業評価の原型となった。

◆『市邨学園短期大学の現状と課題』（2000） 参照

### 2. その後の取組み

#### (1) 概要

本学は学生による授業評価を重視し、平成13年以来、毎年アンケート調査を実施している。また、学生アンケートに合わせて教員に対するアンケートを平成18年まで実施してきた。平成14年度は前期と後期とにそれぞれ調査を行った。それ以外は各年度に1回調査を実施した。調査は専任教員の担当科目1科目について行った。

学生による授業評価は、平成16年度までは自己点検評価委員会が、17年度以降はFD委員会が担当した。学生および教員に対するアンケートの調査結果は担当委員会によって集計され、教授会に報告されるとともに、学内のウェブサイトに掲載された。また、平成19年度からは学外向けのウェブサイトにも結果を公表することにした。

◆平成19年度授業評価アンケート用紙 参照

◆名古屋経済大学ウェブサイト「自己点検評価活動」 参照

(2) 教員の「自己評価報告書」の提出

平成18年より、学生アンケートの結果を受けて、各教員がそれをどう受け止め、今後の授業にどう活かすかを、教員の「自己評価報告書」としてまとめ、学科長ならびに副学長に提出することとした。そのため、平成19年度は教員に対するアンケートを取りやめた。

学科長は提出された教員の「自己評価報告書」を熟読し、総括的なコメントを教授会で述べた。

◆自己評価報告書用紙 参照

◆平成19年11月教授会議事録 参照

(2) 短期大学全体の授業改善(ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動等)への組織的な取り組み状況について記述して下さい。また短期大学の責任者(以下「学長等」という。)は授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。

1. 短期大学全体の授業改善への組織的な取り組み状況

(1) 平成15年5月28日 名古屋経済大学と共同で講演会を開催

講師 池田輝政名古屋大学教授

演題 「受身のFDから、ぜひとものFDへ」

(2) 平成15年10月29日の教授会 取り組むべき授業改善の目標を定めた。

目標 「私語のない授業」、「居眠りのない授業」、「学生の満足度を高める授業」

これを実現するために、全教員に個々の取り組み事例の提出を求め、それを事例集としてまとめた。

◆平成16年3月「私語のない授業、居眠りさせない授業、学生の満足度を高める授業への取り組み報告」まとめ 参照

(3) 平成16年4月1日 FD委員会規程を施行 名古屋経済大学との合同組織が発足

◆名古屋経済大学・同短期大学部FD委員会規程 参照

(4) 平成16年6月30日の教授会 生活文化学科島田教授、具体的な授業の工夫や苦労などについて報告。それを元に意見交換をした。

◆平成16年6月教授会議事録 参照

(5) 平成16年11月10日 FD講演会を開催

講師 悠木そのま氏(キャリアカウンセラー)

演題 「大学教職員のためのキャリアカウンセリング入門」

(6) 平成17年2月4日 FDに関する教授会を開催

キャリアデザイン学科および保育科において、複数担当者が共同で開講する授業の一例についてそれぞれ紹介。また、石川県金城大学短期大学部のキャリア教育への取り組みに関する紹介もされた。

◆平成17年2月教授会議事録 参照

(7) 平成17年度以降の学生による授業評価

前項に述べたように、平成17年度以降は学生による授業評価アンケートをFD委員会が所管している。

(8) 平成18年3月10日 FDに関する教授会を開催

平成17年11月から12月にかけて実施した学生生活アンケート調査および授業評価アンケ

ート調査の集計結果が報告され、これについて審議を行った。

◆平成18年3月教授会議事録 参照

#### (9) 平成19年度 授業の公開

名古屋経済大学運営戦略会議の決定事項として授業の公開が求められている。短期大学部はこれを受けて、平成19年秋、FD委員会の主導で授業の公開を行うこととした。

当該年度は、両学科とも一科目の授業を1回公開した。それぞれ同僚教員が参観し、授業後にアドバイスをするとともに、その内容が、FD委員会の議を経て教授会に報告された。

当該科目は以下の通りである。

①平成19年10月15日（月）1時限目 保育科准教授・家接哲次 担当科目「心理学」  
参観者2名

②平成19年11月28日（水）1時限目 キャリアデザイン学科教授・代田義勝  
担当科目「経営学」 参観者3名

◆平成19年11月教授会議事録 参照

## 2. 学長のコメント

「大学全入時代」といわれる今日、大学は厳しい競争的環境にある。とりわけ短期大学はより困難な状況におかれている。本学もまさにそうした事態に直面している。こうした状況を打開するにはさまざまな取組みが必要であるが、なかでも学生のための教育の質を向上させるために、全学挙げて邁進しなければならないと考える。

名古屋経済大学ならびに名古屋経済大学短期大学部は平成17年に大学運営戦略会議を設立し、個々の学生の満足度を高めるために、全学挙げて授業内容の改善に取り組むよう提起した。

上記の短期大学部の取組みも、大学運営戦略会議の提起に応えようとしたものである。個々の学生の満足度を高めるには、すべての教職員を巻き込んだ努力が必要であり、さらなる創意工夫が求められる。

(3) 担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制、または兼任教員との意思の疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

### [保育科長]

教育理念（人物教育重視、幅広い教養教育、質の高い保育知識・技術の習得）に関わる議題が科教授会に提出された際や、年間授業計画作成などの機会を捉えて、学科の全教員でその妥当性や具体化の方策などについて討議を行っている。こうした討議を通して担当授業について教員相互の意志の疎通が自覚的に図られていると考える。ただし、共通科目担当者との連携は、現状では必ずしも充分とはいえないので、改善すべき余地が今後に残されている。

本学には学内LANが構築され、全教員が研究室に端末を備えている。担当授業に関する個々の具体的な連絡（確認・依頼・相談・報告など）は、時間や場所あるいは音声のみといった制約を受けることのない電子メールを活用することで効率化が図られているといえる。もちろん、各授業担当者のシラバスも、随時Web上から確認することが可能である。こうしたインフラは教員相

互の意思の疎通や協力態勢を高めていく手段として今後ますます重要性を増していくものと思われる。

本学には4年制の幼児保育学科が人間生活科学部に併設されており、同学科教員と保育科教員を中心構成員とする学部・学科横断的研究組織として幼児教育研究会がある。この研究会の全体会議である評議委員会は、兼任教員との意思の疎通を保証する場でもあり、また上述の学科内における議論の深化を補完する役割を果たしてもいる。

非常勤講師と専任教員との連携については、それぞれの専門ごとで授業の展開に必要な情報交換などが行われている。しかしながら、個々の問題が全体に反映される機会が現状では多いとはいえないので、今後は非常勤講師と専任教員とが一堂に会する懇談会のような機会を、年度または学期ごとに開催することも必要と思われる。

#### [キャリアデザイン学科長]

キャリアデザイン学科は平成17年にそれまでの3学科を統合し、地域総合科学科としてスタートした。その結果、新設の科目が多く、また入学者の要望に具体的に応えるべく、試行錯誤によるカリキュラムの見直しを行っている。また毎年教員メンバーの変更もあり、授業担当者間での意思の疎通、協力・調整は、避けて通れない学科全体の課題と捉え、これに対処している。

具体的には、先ず全体として『キャリアデザイン学科履修ガイド』の作成ならびに改訂作業を通して、全教員がカリキュラムの全体像を把握し、それぞれの担当科目の相互理解を図っている。

つぎに、平成19年度からカリキュラムに取り入れた「YES-プログラム」(若年者就職基礎能力支援事業)は、関連科目の時間数、内容、教材に関してより詳細に、また具体的に担当教員の共通理解と相互の協力を求めるものとなっている。

さらに、平成19年度後期より学科をあげて「各種メディアを活用した社会人基礎力の育成」プログラム(同年度「現代GP」に選定)を実施しているが、この計画遂行は全教員の理解と協力によって可能となっている。

その他一般的な科目のうち、複数教員が担当する科目については、シラバス作成の過程を通して意思の疎通、協力・調整がなされている。

非常勤講師については、一般的な科目は教務委員(教員)を通して、特定分野の外部講師を招く科目は科目担当教員並びに学外実習委員会を通して意思の疎通、協力・調整がなされている。

#### 【特記事項について】

(1) この《Ⅱ教育の内容》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

#### 1. 短期大学部としての取組み

##### (1) 名古屋経済大学の科目の履修・単位認定

短期大学の学生は名古屋経済大学の開講科目を履修し、認定された単位を卒業単位に加えることができる。この制度は平成19年4月よりスタートした。

◆『学生ハンドブック』 参照

## (2) 習熟度別授業

短期大学部は名古屋経済大学とともに英語教育センターを運営している。同センターの委員の英語担当教員が中心となって、学生の入学時に英語のプレースメントテストを実施し、その結果を受けて、共通科目「英語Ⅰ」のクラスを習熟度別に編成している。この制度は平成13年より実施されている。

## (3) 総合情報システム（通称MELOS：Mutually Enhancing Links of School Mates）の運用

本学には名古屋経済大学情報センターが管理する総合情報システム（通称MELOS）が設置されている。このシステムは「情報社会としての大学」という観点から構想されており、本学の教育・研究から学生生活全般にいたるまで、これを情報ネットワークとして捉え、その円滑な営みを支えるように設計されている。

教育という側面而言えば、学生はシラバスと時間割をWeb上で確認し、履修登録をWeb上でを行い、期末試験の内容および日程、単位の修得の成否をWeb上で確認する。

学生はまた、学習に必要な情報を、MELOSを通じて収集するとともに、科目によっては、課題をこのシステムを介して担当教員に提出している。この制度は平成13年4月より実施されている。

## (4) 海外研修

平成9年度からの新カリキュラムの開始にあたり、共通科目の一つとして1年生を対象とした「海外研修」（実習科目：2単位）が設けられた。

この科目の趣旨は、昨今の政治、経済をはじめとする生活のあらゆる分野でみられるグローバルイゼーション、高度情報化の進展する中で、ローカルとグローバルの両立という共通の課題を担いながら日常生活を送らざるをえない今日の状況、あるいは21世紀に生きる若者たちの生活環境にかんがみ、諸外国の歴史や文化に肌で触れ、人々との直接的な交流を通して豊かな国際感覚と広い視野を養うことにある。

「海外研修」では、現地研修の他に事前説明会と6コマの事前講義において研修地の伝統文化や歴史、博物館等に関する基礎知識の習得と履修者各自の現地研修テーマの設定を義務づけ、レポートの提出を課している。

これまで現地研修はイタリアとフランスの諸都市で行われている。

◆『学生ハンドブック』 参照

## 2. 保育科の取組み

### (1) 「基礎演習」

保育科では、2年間にわたり、ゼミナール制度を必修科目として実施している。1年前期は「基礎演習」、後期は「総合演習Ⅱ」、そして2年前・後期には「特殊演習」という科目名で行っている。

「基礎演習」は、「初年次教育プログラム」である。この授業の意義は、学生が、新しい環境の中で、高校までの学習との違いに気づき、将来のビジョンを形成しながら、これからの学習の意味を確かめる事である。そのために、保育の専門用語をはじめとする、読み・書きの基

礎力および文章作法を向上させるトレーニングを行うこと、学内施設の活用の仕方を学ぶことを通して、授業参加へのインセンティブを高めていくことを目的とする。

また、こうした学習面のみならず、生活面において留意しなければならないことを講演会や討論を通して学び、有意義な学生生活を送るための自己意識を喚起することもこの授業の目的としている。

#### (2) ワークショップ型ゼミナール「総合演習Ⅱ」と「いちむらっこまつり」の実施

「総合演習Ⅱ」はワークショップ型のゼミナールである。附属市邨幼稚園において実施される「いちむらっこまつり」は「総合演習Ⅱ」の中核をなす。この「まつり」は、「総合演習Ⅰ」で学んだ環境問題・生命倫理・高齢化社会など、地球規模の国際的問題や焦眉の国内的な問題について、幼児にその内容をわかりやすく伝える「指導法」の実践・検証をおこなうものである。

学生たちは紙芝居・劇・音楽会などの発表形式や、紙漉・運動遊びなど幼児とともに行動する実践形式で、自らのメッセージを幼児に伝える。

「まつり」の評価は附属市邨幼稚園の各クラスの教諭および主任・園長による「講評」のかたちで行われる。

「総合演習Ⅱ」では、演習ごとに発表テーマ、発表媒体等について討論し、指導計画を立案する。発表後は、園児の反応や幼稚園関係者の講評をふまえて、自分たちの実践の検証を行いながら、具体的な指導方法、援助のあり方、保育者の果たすべき役割について討論を進める。

これまでほぼ同一形式で4年間実施している。

#### (3) 情報・メディア教育

保育科では通年必修科目「コンピューター概論」を開講している。これは幼稚園教諭免許取得に関わって、教育の方法・技術とくに情報機器と教材の活用を学ぶために設定された科目で、その重要性と有用性からこれを必修科目に位置づけている。授業の内容としては、文書・表作成の基本技能をはじめとして、ウェブサイトの閲覧や電子メールの利用法などを学習する。情報リテラシーの高校間における格差が無視し得ない程度に存在するために、習熟度別の少人数（25名以下）クラス編成で対応している。また、本学で受験できるMicrosoft Office Specialist（MOS）検定など、資格の取得もこの授業で支援している。

#### (4) 絵本ライブラリとその活用

平成17年度より学内に設置された絵本ライブラリには、和洋書あわせて現在約1200冊の絵本と約120部の紙芝居が、開架形式で学生や地域住民に公開、利用されている。授業における絵本や紙芝居の読み聞かせの実技指導の場として利用されることはもちろん、キャンパス内にある附属幼稚園の園児が教諭に引率されて、新しい絵本を閲覧したり、読み聞かせをしてもらったりしている。さらに、附属幼稚園が企画する読み聞かせボランティア養成講座などもこのライブラリを利用して開催されている。

### 3. キャリアデザイン学科の取組み

#### (1) 地域総合科学科としての取組み

キャリアデザイン学科は平成17年4月、地域総合科学科として発足した。カリキュラムでは地域社会のニーズに応えられるよう配慮しつつ、入学者の多様な要求にも最大限応えられるよう

に工夫している。そのため、つきたい仕事に即した履修モデルを多数用意している。

なかでも放送関連、マスコミ関連の科目をおいているのが本学科の特色である。

また、地域社会との結びつきを重視し、地域住民の学習ニーズに応えるために、訪問介護員養成研修講座を開講するとともに、春期と秋期に生涯学習講座を開催している。

◆『キャリアデザイン学科履修ガイド』 参照

◆生涯学習講座案内チラシ 参照

## (2) 「YES-プログラム」に準拠したカリキュラム

キャリアデザイン学科は開設早々カリキュラムを見直し、平成18年度より厚生労働省の「YES-プログラム」（若年者就職基礎能力支援事業）に準拠した科目構成をとっている。

## (3) 「各種メディアを活用した社会人基礎力の育成」プログラム

平成19年、キャリアデザイン学科は文部科学省補助事業の「現代GP」に選定され、10月よりその取り組みを本格化した。本取り組みは、以下の4つの柱からなる。

### ①「ワークショップ型ゼミナール」の実施

これは、必修のゼミナールにおいて、学生がチームで、PLAN（計画）－DO（実施）－SEE（チェック・改善）のマネジメント・サイクルを運用していくことを通じて、社会人基礎力を身につけていく取り組みである。具体的には、10月に大学祭への出展や出店を、11月に学外セミナーを実施し、マネジメント・サイクルを運用した。

### ②「各種メディア」を活用した情報の発信

ワークショップ型ゼミナールで取組んだことがらをメディア・コンテンツにまとめ、情報発信していく活動である。まず、4つのメディア（コミュニティFM、新聞、ミニコミ誌、ホームページ）について、それらの魅力や運営の苦労について学び、その後、ゼミナール毎にメディアを選択し、直接専門家の指導を受けながら、メディア制作を実施した。

### ③「総合キャリアポートフォリオ」の活用

総合キャリアポートフォリオとは、キャリアデザインや社会人基礎力に関して学生が記述した書類を中心に綴じていくファイルである。これは、ゼミナール指導教員の研究室に置かれており、学生が研究室を訪ねて活用する形をとっている。

### ④「社会人基礎力評価ツール」の開発

学生個々の社会人基礎力の測定、企業が短大生に求める社会人基礎力の調査、そしてメディア制作場面で社会人基礎力を測定できる設問の検討・開発等を進めてきた。

◆名古屋経済大学ウェブサイト「現代GP」 参照

## (4) 海外語学研修

海外語学研修は英語科の開設により平成元年に開講され、以来実施されている。海外語学研修は現在、キャリアデザイン学科の学科科目であるが、保育科への開放科目となっている。この研修は異文化圏滞在経験を通して、語学力を磨くだけでなく、文化の違いを認識し、国際的視野を広げるために実施されている。夏休みを利用して、ホームステイをしながら、カナダのブリティッシュ・コロンビア州で英語を集中的に勉強する。研修中には小旅行も行われる。

この科目を履修することにより3単位を取得できる。

◆『学生ハンドブック』 参照

## (5) インターンシップの単位認定

キャリアデザイン学科ではインターンシップへの参加を推奨し、これを学科科目(2単位)と

して開講している。この科目は、企業、官公庁、非営利団体などにおいて、業務を直接体験することにより、職業意識を高め、自己管理能力を養い、将来設計に役立てようとするものである。参加者は事前学習を受講した後、企業、官公庁、非営利団体等で10日程度の実習を行う。実習後、事後学習を受講する。事後学習の締めくくりとして、キャリアセンターとの共催で、参加学生の報告会を実施している。この報告会にはインターンシップを受け入れた企業などの代表を招いて、講評をしてもらうこととしている。

この科目は平成18年度より開講している。

◆『学生ハンドブック』 参照

#### (6) ボランティアの単位認定

キャリアデザイン学科では、地域社会に貢献する自発的な意思に基づいた実践的な活動に対して、その内容が所定の条件を満たしていると認められる場合、申請によりボランティア活動Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの単位（各1単位）が与えられる。

この科目は平成18年度より開講している。

◆『学生ハンドブック』 参照

#### (7) 入学前教育における単位認定

本学は平成15年以来、入学予定者にあらかじめ入学後の情報を提供するとともに、課題を課して、応答を求め、入学前より学習上のコミュニケーションをとっている。キャリアデザイン学科では、平成20年より、附属高校と連携し、入学予定者に対して特別授業を行うこととした。読み書きパソコンの基礎的な授業であるが、これを履修したものは、入学後の卒業単位に加算される。

◆「入学手続要綱」参照

#### (8) キャリアデザイン支援室の活用

学生のキャリアデザインを側面から支援するために、平成18年4月、キャリアデザイン支援室を設け、同支援室運営委員会がその管理運営にあたることとした。

同支援室には、キャリア形成に係わる各種図書、DVD等の資料を整えると共に、PCを18台設置した。学生は職業適性診断や情報検索などで、これらを自由に活用している。

支援室はまた、コミュニティFM放送のコンテンツ作成や、各ゼミナールの活動内容を紹介する「ゼミナール新聞」の発行を支援してきた。

支援室はさらに外部講師を招聘し、学生のための支援室実践講座の企画・運営も行っている。平成19年度には以下の5講座を開催した。

- ①「ネイルアーティストの魅力」
- ②「カラーアナリストになろう」
- ③「私のキャリアデザイン 介護福祉士になって」
- ④「簡単エクササイズ ピラティスを体験しよう」
- ⑤「美しい表情と姿勢」

なお、支援室は地域住民向けの春期・秋期の生涯学習講座も運営している。

◆平成19年度キャリアデザイン支援室運営委員会議事録 参照

#### (9) 名古屋経済大学の学生への単位認定

名古屋経済大学は現在、短期大学部における単位取得を基本的に認めていないが、キャリアデザイン学科が開講する訪問介護員（ホームヘルパー）2級に必要な単位について、キャリアデザイン学科は履修を希望する学部学生に対して、単位を認定している。

#### (10) 情報・メディア教育

本学科では、全国大学実務教育協会の課程認定を受け、情報処理士、上級情報処理士、ビジネス実務士、上級ビジネス実務士、ウェブデザイン実務士の各資格取得を奨励している。これらの資格取得には多くの情報科目ならびにインターネット関連のメディアに関する科目の履修が必要となっており、またそのための施設設備も整っており、情報・インターネット分野のメディアに関する教育環境は整備されている。メディア教育については、平成19年度より放送にかかわる科目群を新たに設け、またラジオ番組制作ができるスタジオを設置した。こうした環境整備により、メディアにかかわる学習、訓練ができるようになっている。

(2) 特別の事由や事情があり、この《Ⅱ教育の内容》の評価項目や評価の観点を求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

とくになし。